

さんだ子ども発達支援センター支援
ストラディヴァリウス
チャリティ・コンサート

2013年8月8日(木)
三田市総合文化センター
郷の音ホール 大ホール

主 催：(公財)ひょうご子どもと家庭福祉財団
(社福)ひょうご障害福祉事業協会
後 援：三田市
三田市教育委員会
三田市文化協会
特別協力：(公財)日本音楽財団
協 力：(公財)日本財団

公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団
社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会
理事長 片岡 實

「ストラディヴァリウス・チャリティ・コンサート」にお越しいただき、ありがとうございます。

1968年より障害のある子どもや家庭の幸せを願って民間福祉活動を行ってまいりました。法律や制度の枠を超えた先駆的な福祉や療育の活動を、公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団ですすめ、新しいアイデアを生かした福祉施設を、社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会で運営しています。

二つの団体で、「さんだ子ども発達支援センター」を開設・運営し、特別な支援を必要とされる子どもたちの療育活動などを行っております。

この度、日本音楽財団の特別のご協力により、「ストラディヴァリウス・チャリティ・コンサート」を開催させていただくことになりました。

コンサートのチケット売上金は、全額「さんだ子ども発達支援センター」の活動資金として使用させていただきます。ありがとうございました。

PROGRAM

ヨハネス・ブラームス
Johannes Brahms (1833-1897)

ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調 作品78 「雨の歌」
Violin Sonata No. 1 in G major, Op. 78 "Rain Sonata"
(1879)

- I. Vivace ma non troppo
- II. Adagio
- III. Allegro molto moderato

ピョートル・チャイコフスキー
Pyotr Tchaikovsky (1840-1893)

「懐かしい土地の思い出」作品42より「メロディ」変ホ長調
"Mélodie" in E-flat major
from "Souvenir d'un lieu cher" Op. 42
(1878)

カミーユ・サン＝サーンス
Camille Saint-Saëns (1835-1921)

序奏とロンド・カプリチオーソ イ短調 作品28
Introduction and Rondo Capriccioso in A minor, Op. 28
(1863)

ヨハネス・ブラームス
Johannes Brahms (1833-1897)

「F.A.E. ソナタ」より「スケルツォ」ハ短調
"Scherzo" in C minor from "F.A.E. Sonata" WoO 2 posth.
(1853)

ヨハネス・ブラームス / ヨーゼフ・ヨアヒム編曲
Johannes Brahms (1833-1897)
arr. Joseph Joachim (1831-1907)

「ハンガリー舞曲集」より
第1番 ト短調 / 第7番 イ長調
Hungarian Dances No. 1 in G minor and No. 7 in A major
(1869)

PROGRAM NOTES

ヨハネス・ブラームス Johannes Brahms (1833-1897)

ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調 作品78「雨の歌」
Violin Sonata No. 1 in G major, Op. 78 "Rain Sonata"
(1879)

ブラームスはドイツの作曲家であり、ピアニスト、指揮者でもある。7歳で始めたピアノを急速に習得し、10代前半には既に作曲をしていた。20歳の頃に出会った作曲家のロベルト・シューマン(1810-1856)はブラームスの才能を絶賛し、彼の作品を広める重要な役割を果たした。ブラームスはシューマン一家と親交を深め、シューマンの死後も、夫人のクララ・シューマン(1819-1896)と生涯に渡って交流を続けた。この曲は、彼が名付け親となったシューマン夫妻の息子、フェリックス(ヴァイオリニスト・詩人)が25歳の若さで病死した直後に作曲された。第3楽章の主題に、ブラームス作曲の同名の歌曲が使われていることから「雨の歌」とよばれる。クララが特に好んだこの歌曲を引用することで、彼女への想いを表現したと言われている。

ピョートル・チャイコフスキー Pyotr Tchaikovsky (1840-1893)

「懐かしい土地の思い出」作品42より 「メロディ」
"Mélodie" in E-flat major
from "Souvenir d'un lieu cher" Op. 42
(1878)

チャイコフスキーはロシアを代表する作曲家。幼い頃から音楽の才能を示したが、家族の理解を得られず、法律学校で学んだ後、法務省に勤務する。しかし音楽の道を諦めきれず、22歳の時、1862年に設立されたサンクトペテルブルク音楽院の一期生として入学。翌年には法務省を辞職し、以降、音楽に専念する。3大バレエとされる「白鳥の湖」、「眠れる森の美女」、「くるみ割り人形」、交響曲、協奏曲、室内楽、オペラなど、様々なジャンルの作品を多く残した。「懐かしい土地の思い出」は、「瞑想曲」、「スケルツォ」、「メロディ」からなる小品集で、後援者ナジェジダ・フォン・メック夫人に感謝の印として贈られた。「懐かしい土地」は、ウクライナのプライロヴォを指すと言われ、この小品集は、同地にあるフォン・メック夫人の別荘で完成された。

カミーユ・サン＝サーンス
Camille Saint-Saëns (1835-1921)

序奏とロンド・カプリチオーソ イ短調 作品 28
Introduction and Rondo Capriccioso in A minor, Op. 28
(1863)

サン＝サーンスは、フランスの作曲家であり、オルガニスト、ピアニストでもある。幼い頃から神童とよばれ、2歳でピアノを弾き、3歳で最初の曲を作曲した。音楽の他にも天文学、数学などの学問や詩、絵画などの芸術分野でも才能を示した。この曲は、スペイン出身の名ヴァイオリニスト、パブロ・デ・サラサーテ(1844-1908)のために作曲された。オリジナルはヴァイオリンと管弦楽のための協奏的作品で、ピアノ伴奏版は、「カルメン」で有名なジョルジュ・ビゼー(1838-1875)によって編曲された。この曲は、スペイン風の要素が取り入れられており、技巧的に大変難しい。サラサーテがヨーロッパ中でこの曲を演奏して以来、多くのヴァイオリン名手がこの曲を取り上げている。現在でもヴァイオリン曲の重要なレパートリーとして人気が高い。

ヨハネス・ブラームス
Johannes Brahms (1833-1897)

「F.A.E. ソナタ」より 「スケルツォ」ハ短調
“Scherzo” in C minor from “F.A.E.Sonata” WoO 2 posth.
(1853)

F.A.E. ソナタは、ロベルト・シューマンとその弟子のアルベルト・ディートリヒ(1829-1908)、そして当時若干20歳だったブラームスによる合作。第1楽章をディートリヒが、第2、4楽章をシューマンが、第3楽章「スケルツォ」をブラームスが手がけ、3人の共通の友人でヴァイオリニストのヨーゼフ・ヨアヒム(1831-1907)に献呈された。F.A.E.とは、ヨアヒムのモットーであった「自由に、しかし孤独に(Frei aber Einsam)」の頭文字(F、A、E)のことで、イタリア音名のファ(F)、ラ(A)、ミ(E)の音列がこのソナタの重要なモチーフとなっている。それぞれの楽章の作曲者を推測するよう求められたヨアヒムは、全て明確に言い当てたという。シューマン邸にて、ヨアヒムのヴァイオリン、クララ・シューマンのピアノで初演された。

ヨハネス・ブラームス / ヨーゼフ・ヨアヒム編曲
Johannes Brahms (1833-1897)
arr. Joseph Joachim (1831-1907)

「ハンガリー舞曲集」より
第1番 ト短調 / 第7番 イ長調
Hungarian Dances No. 1 in G minor and No. 7 in A major
(1869)

ブラームスは1950年代の前半、ハンガリー出身でジプシーの血を引くヴァイオリニスト、エドゥアルト・レマーニ(1830-1898)の伴奏者としてドイツ各地へ演奏旅行に出かけた。この時、レマーニの教えでハンガリーのロマ(ジプシー)の音楽に魅了され、ハンガリーの民俗音楽の旋律を採譜し始めた。それらをピアノの連弾曲として編曲したのが「ハンガリー舞曲集」で、1869年に10曲が、1880年に11曲が出版されると大好評となった。「ハンガリー舞曲集」の成功を知ったレマーニは、自身の演奏からの盗作であるとしてブラームスを相手に訴訟したが、出版の際に「作曲」ではなく「編曲」としていたことが幸いし、ブラームスが勝訴した。この舞曲集は、ヨーゼフ・ヨアヒムによってヴァイオリンとピアノのための二重奏曲に編曲された他、様々な楽器の編曲があり、現代も広く演奏されている。



©Felix Broede

アリーナ・ポゴストキーナ
Alina Pogostkina (violin)

1983年、サンクトペテルブルクに生まれる。1992年に一家でドイツに移住。父親の手ほどきでヴァイオリンをはじめ、後にベルリンのハンス・アイスラー音楽大学でアンティエ・ヴァイトハースに師事する。数々の著名なコンクール入賞を経て、2005年シベリウス国際ヴァイオリン・コンクールで優勝し、一躍注目された。これまでにロジャー・ノリントン、サカリ・オラモ、ウラディーミル・アシュケナージなど著名な指揮者をはじめ、シュトゥットガルト放送交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、インディアナポリス交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、ハレ管弦楽団、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー交響楽団等、世界中のオーケストラとも共演を重ねている。2008年小林研一郎指揮読売日本交響楽団、2011年ジョナサン・ノット指揮NHK交響楽団との共演で来日している。2013年2月には、バンベルク交響楽団とジョナサン・ノットと共にドイツとスペインのツアーに参加。同年4月にはワルター・シュテフェンス作曲のヴァイオリン協奏曲をマーティン・ブラビンス指揮ベルリン・ドイツ交響楽団と初演した。

現在、日本音楽財団から貸与されているストラディヴァリウス1717年製ヴァイオリン「サセルノ」を使用。



林 絵里
Eri Hayashi (piano)

東京生まれ。4才よりピアノを始める。1977年第31回全日本学生音楽コンクール、奨励賞受賞。桐朋女子高校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。ピアノを樋口恵子、弘中孝、故中島和彦の各氏に師事。卒業後、同大学に於いて、2年間、弦楽科伴奏研究員を務める。1986年第8回チャイコフスキー国際音楽コンクールのチェロ部門で最優秀伴奏者賞を受賞。1986年より日本国際音楽コンクール ヴァイオリン部門の公式ピアニストを務める。1991年、ミュンヘンにて、ワルター・ノータス氏に師事。これまで、ステイブン・イッサーリス、エドアルド・メルクス、ドン・スク・カン、バルトゥミオ・ニジョー、ヴィヴィアン・ハグナー、エリック・シューマン、徳永二男、諏訪内晶子をはじめ、数多くの演奏家と共演。又、NHK交響楽団メンバーとの室内楽演奏や、NHKFM、CDの録音なども行っている。現在、国内外で共演ピアニストとして活躍中。

ストラディヴァリウス 1717年製ヴァイオリン「サセルノ」 Stradivarius 1717 Violin “Sasserno”



Photo by S. Yokoyama

アントニオ・ストラディヴァリ (1644-1737) は、クレモナの弦楽器製作の第一人者であるニコロ・アマティ (1596-1684) の弟子としてクレモナのヴァイオリン製作の伝統を受け継ぎ、当時から今日に至るまで最も偉大な弦楽器製作者として知られている。後に二人の息子フランチェスコとオモボノも父親の後を継ぐが、ストラディヴァリ一族からアントニオを超える者はなく、現在「ストラディヴァリウス」として多くの演奏家が一度は手にしたいと憧れる名器は、アントニオによって作られたものである。彼の製作した「ストラディヴァリウス」は、音色の素晴らしさ、構造の美しさと精密さで知られている。

300年を越えて受け継がれてきた名器「ストラディヴァリウス」には、それぞれ過去の著名な所有者や楽器の特色に因んだニックネームが付けられている。本日使用するストラディヴァリウス 1717年製ヴァイオリン「サセルノ」は、1845年からフランスのサセルノ伯爵が所有していたことからこの名前で呼ばれている。1894年にはヴァイオリン奏者のオットー・ペイニガーが所有し、その後イギリスで有名な醸造所を所有していたピカリング・フィップスの手に渡った。1906年にはイギリスの産業資本家ヘンリー・サマーズが所有し、それ以後90年以上にわたり同家で大切に保管されていたため、製作時のままのニスが多く残っており保存状態が非常に優れている。

さんだ子ども発達支援センター



子どもの発達支援のための総合的で先駆的な療育活動や研修活動などをすすめています。

一人ひとりの大切な発達を援助するために

- かるがも園
- すくすく教室
- 子ども発達支援センター
 - 聴覚言語訓練
 - 作業療法、理学療法
 - シェルボーン・ムーブメント・セラピー
 - 感覚統合療法
 - 視機能・視知覚訓練
- 各種教室、研修会などの開催

子どもたちには、もって生まれたすばらしい能力があります。能力を十分に発揮して自信をもって大きく育つように個々のお子さまにあったプログラムを提供します。

子どもや発達の過程でのさまざまな問題や心配に、いつでも「さんだ子ども発達支援センター」は相談にのります。

このコンサートのチケット売上のすべては、「さんだ子ども発達支援センター」の子どもと家庭の福祉活動に使われます。

「さんだ子ども発達支援センター」 兵庫県三田市井ノ草 808 番地
Tel(079)568-1955 Fax(079)560-0595 <http://www.eonet.ne.jp/~karugamoen/>

日本音楽財団

NIPPON MUSIC FOUNDATION

日本音楽財団は、現在、アントニオ・ストラディヴァリ等によって製作された世界最高クラスの弦楽器を 20 挺（ストラディヴァリウス製ヴァイオリン 14 挺、チェロ 3 挺、ヴィオラ 1 挺、ガルネリ・デル・ジェス製ヴァイオリン 2 挺）を保有し、国籍を問わず一流の演奏家や若手有望演奏家に無償で貸与しています。

当財団が保有する世界の文化遺産ともいわれる名器の保守・保全に関しては、次世代に継承するための管理者としての大きな責務を負っていることを自覚し、最大の努力を払っています。楽器の保守・保全及び貸与事業は、世界の音楽界から高く評価されています。

楽器貸与に係わる基本方針の策定、並びに貸与者の決定は、当財団の楽器貸与委員会が行います。委員会は世界的な指揮者であるロリン・マゼール氏を委員長として、欧・米・アジアを代表する 8 名の委員により構成されています。

日本音楽財団は、楽器貸与者の協力を得て、貸与者と貸与楽器による演奏会を国内外で開催し、名器の音色に触れる機会を提供しています。

2007 年からは、特に日本国内各地での演奏会に重点を置き、ストラディヴァリウスやデル・ジェスとその貸与者によるチャリティ・コンサートを開催しています。その収益金は開催地の音楽振興・福祉等のために使われており、今回のチャリティ・コンサートもその一環となります。

日本音楽財団の事業は、日本財団の全面的なご支援により実施されています。

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION